

事業番号	15 09 09	事業改善シート (27年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	競技力向上事業費				担当課	部局	長野県教育委員会	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	スポーツ課		
	施策の総合的展開	7-3 生涯を通じた学びと文化・スポーツに親しむ環境づくり			E-mail	sports-ka@pref.nagano.lg.jp		
		3 スポーツの振興			実施期間	S53 ~		

1 事業の概要

目指す姿	県民のスポーツに対する関心とスポーツ活動への参加意欲を高めるため、オリンピック等の国際大会や国体等の全国大会で活躍する競技者を育成・強化し、競技力の向上を目指す。				
現状 (予算編成時)	<p>○競技団体は本事業を活用して継続的な競技力向上に取り組んでおり、その結果、優秀な競技成績を収めている団体も見られる。しかし、より安定的な競技力の維持・向上のためには、各競技の特性に応じた一貫指導体制の整備や指導者の養成など競技者育成基盤の整備が必要である。</p> <p>○国際舞台で活躍する選手を育成するためには、海外での競技経験や一流選手と競技経験が必要であり、2020年東京五輪開催は、県内各競技団体にとって、更なる競技力向上に向けた取り組みの強化を図る絶好の機会である。</p> <p>○長期的・安定的な競技力の基盤を築くためにも、ジュニア期の人材発掘と競技人口の拡大に向けた取組を進める必要がある。</p>				
県が関与する理由	県関与の必要性あり		【左記の説明、根拠法令等】 社会体育振興事業補助金交付要綱		
成果目標・事業内容	① 成果目標 (H27)				
	国民体育大会の総合順位10位台を維持し、平成29年には15位以内を目指す。また、ジュニアの強化を図り、H29年度に国体ジュニア・インターハイ・全中への入賞数200を目指すため、毎年6人程度の入賞数増加を目標とする。				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H27事業実績		H28
			(当初)	(決算)	(当初)
	競技力向上事業補助金(国体選手強化)	補助金	各種競技大会で入賞を目指すための活動に対する助成(競技用具整備への助成含む)		70,050
	競技力向上事業補助金(冬季国体特別強化)	補助金	本県開催となる第72回国民体育大会冬季大会(H29年1月、2月)に向けた特別強化事業の実施		20,000
	競技力向上事業補助金(馬匹管理補助)	補助金	県有馬の管理に係る経費への助成		1,920
	オリンピック育成支援事業	補助金	東京オリンピック等で活躍する県内のトップアスリートや有望競技への助成		10,190
	マルチサポート事業	補助金	ドクター、トレーナー、栄養士等を選手の合宿、国体等に派遣して行うコンディショニング調整への助成		2,066
	ジュニア競技力向上事業	負担金	各競技団体への負担金(合宿及び対外試合による強化事業)		16,388
	長野県冬季アスリート発掘・育成事業(SWANプロジェクト)	負担金	SWANプロジェクト実行委員会への負担金		3,501
			合計		124,115
					122,917
					126,115

事業コスト	区	分(単位:千円)	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額	前年度繰越				
		当初予算	105,358	104,115	124,115	126,115
		補正予算				
		合計(A)	105,358	104,115	124,115	126,115
	Aの財源	一般財源	102,290	102,604	124,095	125,555
		県債				
		国庫支出金				
		その他	3,068	1,511	20	560
	決算額(B)	105,358	104,115	122,917		
概算人件費	職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30	
	概算人件費(C)	2,477	2,477	2,483	2,483	
	概算事業費(B(A)+C)	107,835	106,592	125,400	128,598	

成果目標の達成状況					
項目	H26末(実績)	H27			H28目標
		目標	成果	達成状況	
国民体育大会総合(天皇杯)順位	20位	16位	14位	達成	14位
ジュニア入賞数	191人・団体	190人・団体	211人・団体	達成	211人・団体

目標に対する成果の状況	<p>第70回国民体育大会では、冬季大会スキー競技会における男女総合・女子総合優勝をはじめ、本大会での9つの優勝、62の入賞を果たした。団体競技及び女子種別の活躍により、天皇杯14位となり目標を達成した。</p> <p>ジュニア入賞者数においても、スキー・スケート競技での活躍により目標を上回っている。SWAN生及び修了生の活躍も成果として表れてきている。</p> <p>※成果目標の達成状況における「H26末(実績)」値は見込み値から実績値に修正</p>
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	<p>本事業を活用して、競技団体は中期・長期的な計画の元、競技力向上事業に取り組んでおり、その結果、優秀な成績を収めている団体もある。さらに競技成績の向上を図るため、指導者の育成、一貫指導体制システムの構築に向け、更なる支援を行う必要がある。</p> <p>ジュニア層が夢と希望を持てるよう、国際大会等で活躍する選手育成に支援する。また本県開催の冬季国体では、地元の選手が活躍できるよう支援する。</p>